

## 第1回～第3回 府中市保育検討協議会のまとめ

---

## (1) 市の状況 (第1回)

---

- 少子高齢化の進行、就学前児童人口は減少見通し
- 18歳未満の子どものいる世帯のうち9割以上が核家族世帯（核家族化）、ひとり親世帯の増加
- 女性就業者数の増加、子どものいる世帯の約40%の世帯が父母が共働き世帯
- 地域内の関係性が希薄化、子育て家庭の孤立化
- 育児への負担や不安の増加
- 育児休業制度利用状況 母の取得率：約26%、父の取得率：1.30%
- 希望した時期に保育サービスを利用することができたと回答した割合は約半数
- 3歳児未満の約70%は在宅で過ごしている

## (2) 市民の意向 (第1回)

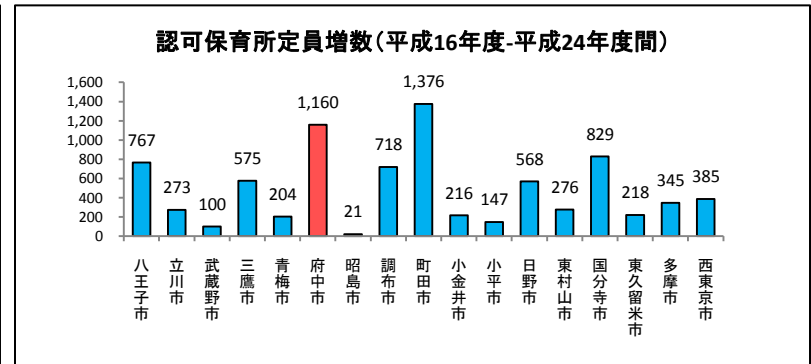
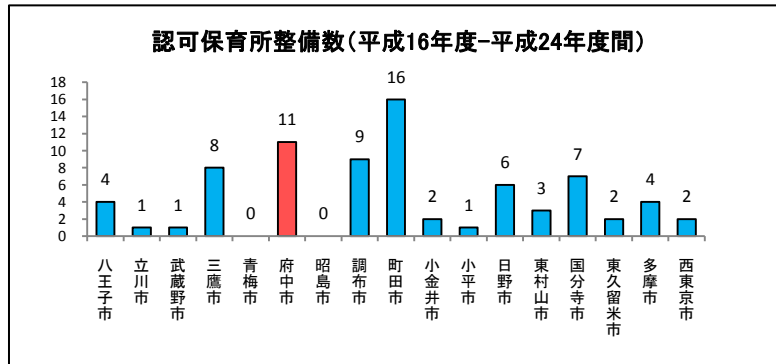
---

- 「保育サービスの充実」と「地域の子育て支援の充実」への高い期待（市民意向調査）
  - ・ 保育サービスの充実：認可保育所によるサービス、病児・病後児保育及び一時あずかり等
  - ・ 地域の子育て支援の充実：子どもの遊び場、親子で楽しめるイベント、親の息抜き及び親同士の交流等

## 府中市次世代育成支援行動計画（後期計画）に基づく施策の推進（第1回～第3回）

### ○ 認可保育所及び認可外保育施設の施設整備による定員増

- ・ 私立保育園（分園）の新設、認証保育所の新設、保育室の認証保育所への移行支援及び保育ママの導入



### ○ 多様な保育サービス（延長保育、一時預かり、病児・病後児保育等）の提供

- ・ 新設保育施設によるサービス拡充（新設保育施設がサービス拡充の中心的主体）
- ・ 特定保育利用者補助制度を創設し利用者の料金負担の軽減

### ○ 地域の子育て支援（子育てひろば）の充実

- ・ 新設保育施設によるサービス拡充（新設保育施設がサービス拡充の中心的主体）
- ・ 市民ボランティアの育成及び自主活動団体及び子育てNPO等に対する運営支援

### ○ 待機児童への対応（第1回）

- ・施設整備による受入児童数の拡大を進めているが、少子高齢化や厳しい財政の状況を踏まえ、大規模施設の整備に拠らない新たな方策の確立

平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
244名	164名	164名	188名	301名	227名	252名	182名

### ○ 多様な保育サービスの充実（第2回）

- ・多様化し変化していく保育ニーズに対して、より迅速かつ柔軟に対応するための実施体制の強化  
⇒ 他市比較で「一時預かり・特定保育」及び「すくすく保育（障害児等保育）」等の実施率の低い事業や市民の期待が大きい「病児・病後児保育」の充実

### ○ 地域子育て支援事業の拡充（第3回）

- ・現在の地域間の実施状況・体制に配慮した、地域子育て支援事業の更なる充実と底上げ
- ・新たな地域の子育て支援の担い手である子育てボランティアや子育て関連団体等との連携強化
- ・関係機関（子ども家庭支援センター、あゆの子、保健センター等）との連携強化
- ・要保護児童や地域に潜在化している家庭に対する支援アプローチの強化
- ・少子高齢化を踏まえた支援事業の将来的な方向性の確立

### ○ その他

- ・近年開設した保育施設への運営支援や指導体制の更なる充実と既存保育施設との相互施設間の連携強化
- ・将来を見据えた持続可能で健全な行財政運営の確立
- ・市立保育所等の保育施設の老朽化への対応

## 4 市の今後の方向性

### ① サービス提供体制の最適化

設置主体の特性や特長に基づき、各々の主体が提供すべきサービスの方向性や重点的に実施すべきサービスを明確にし、市内に所在するすべての保育施設等が一体となって保育行政の課題に迅速かつ適切に対応することができる体制の構築

- 【府中市保育検討協議会の所掌事務】
- 市内の保育所の設置主体に応じた保育の現状の分析に関する事項
  - 地域における子育て支援に関する事項

### ② 市立保育所への民間活力の導入（民間移行）

既存の保育施設を重要な資源と捉え、市立保育所への民間活力の導入を進めることにより、効率的かつ効果的な保育所運営の実現するとともに、施設の機能拡充による保育サービスの充実

- 【府中市保育検討協議会の所掌事務】
- 市が設置する保育所の管理運営の効率化に関する事項

### 現時点での今後の方向性のイメージ（案）

